

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士前期課程
授業名	臨床医学特論			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	基礎教育棟 3 階講義室 2 中講義室 3 0 4	
科目区分	専門科目	配当年次	1 年次	
必修・選択の別	選択	単位	1 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	精神疾患、ゲノム医療、救急画像診断、出生前診断、着床前診断、脳卒中、チアノーゼ、段階的治療、緩和医療、外科学と創傷治癒			
担当教員 （下線：科目責任者）	医	准教授 南 佐和子、講師 上松耕太、准教授 南口博紀、講師 八子理恵、准教授 蘆田玲子、准教授 月山 淑、 <u>教授 朝村真一</u> 、講師 山田信一		
	薬			
授業の概要	内科、外科、精神科などの臨床医学の各分野における概論的な内容や最近のトピックスなどを幅広く学び、各疾患等における最新の知見を修得する。			
到達目標	□精神障害者に対するスティグマ（無知や偏見）を克服する。 □臨床現場でライフステージに応じた正しい緩和医療を多職種で提供できる。 □画像診断における典型的な画像所見や治療方針について説明できる。 □先天性心疾患における呼吸循環動態とその診断治療法を理解する。 □脳卒中の病態、神経所見、画像診断、治療方法を理解し、最新の知見を修得する。 □出生前診断・着床前診断の方法、原理、対象者並びに出生前診断と着床前診断の違い及び倫理的側面について理解する。 □外科学全般において創傷治癒の基礎知識は重要であることを理解する。 □遺伝子異常や遺伝性腫瘍に関する一般的知識及び胆膵領域におけるゲノム医療の現状について理解する。			

授業計画	1. 出生前診断・着床前診断（南佐和子／1回）【6/16 6限】 出生前診断および着床前診断について理論及びその意義、遺伝カウンセリングの必要性について解説する。 2. 先天性心疾患とは（上松耕太／1回）【6/16 7限】 先天性心疾患の呼吸循環動態について概説する。疾患の診断と治療法、さらに外科治療法の利点と問題点を概説する。 3. 放射線診断学の過去・現在・近未来（南口博紀／1回）【6/23 6限】 放射線診断学の歴史を概説し、現状と展望を解説する。 4. 脳卒中の診断と治療（八子理恵／1回）【6/23 7限】 脳卒中の診断と治療について概説し、最近の動向、研究について理解を深める。 5. 膵胆道癌におけるゲノム医療（蘆田玲子／1回）【6/30 6限】 遺伝子に関する総論を概説後、胆膵領域におけるゲノム医療の現状や分子標的薬剤の成績に関して概説する。 6. 緩和医療の最近の動向とトピックス（月山 淑／1回）【6/30 7限】 患者のライフステージに応じたケアを提供できるように、緩和医療に関する最新の知見や新たなガイドラインについて学ぶ。 7. 形成外科学総論（朝村真一／1回）【7/7 6限】 形成外科は①センス（感性）②サイエンス（科学）③日々向上している手術手技から構成される外科であることを説く。 8. 精神医学史にもとづく精神障害者の理解（山田信一／1回）【7/14 6限】 精神医学史について概説し、精神障害者に対する理解を深める。
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	【教科書】授業計画1・5・8 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 授業計画7 「標準形成外科学」 編集：秦 維郎、野崎幹弘 出版社：医学書院 「TEXT形成外科学」 監修：波利井清紀 出版社：南山堂 【参考書】授業計画7 「創傷外科」 監修：波利井清紀、野崎幹弘 出版社：克誠堂